

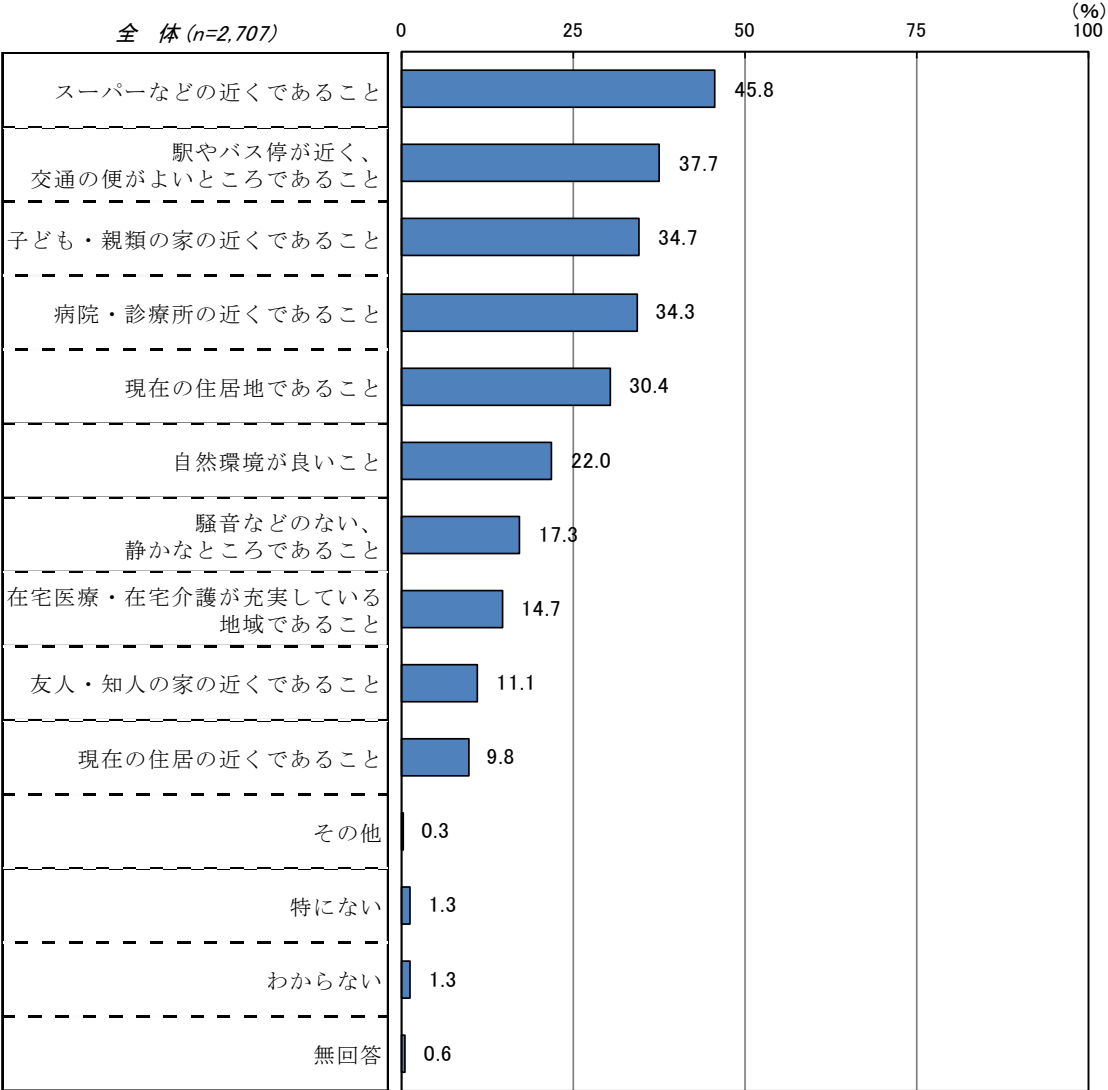
(22) 高齢期に住みたい住居の立地条件(Q25)

Q25 あなたが高齢期に居住する住居の立地条件として、重視することはどのようなことですか。
 この中から3つまであげてください。(〇は3つまで)

- 1 子ども・親類の家の近くであること
- 2 友人・知人の家の近くであること
- 3 現在の住居の近くであること
- 4 現在の住居地であること
- 5 病院・診療所の近くであること
- 6 在宅医療・在宅介護が充実している地域であること
- 7 スーパーなどの近くであること
- 8 駅やバス停が近く、交通の便がよいところであること
- 9 騒音などのない、静かなところであること
- 10 自然環境が良いこと
- 11 その他 ()
- 12 特にな
- 13 わからない

高齢期に住みたい住居の立地条件について聞いたところ、「スーパーなどの近くであること」が45.8%で最も高く、次いで「駅やバス停が近く、交通の便がよいところであること」(37.7%)、「子ども・親類の家の近くであること」(34.7%)、「病院・診療所の近くであること」(34.3%)、「現在の住居地であること」(30.4%)、「自然環境が良いこと」(22.0%)などの順となっている。

高齢期に住みたい住居の立地条件(Q25)(3つまでの複数回答)



(23) 高齢期に住みたい住居形態(Q26)

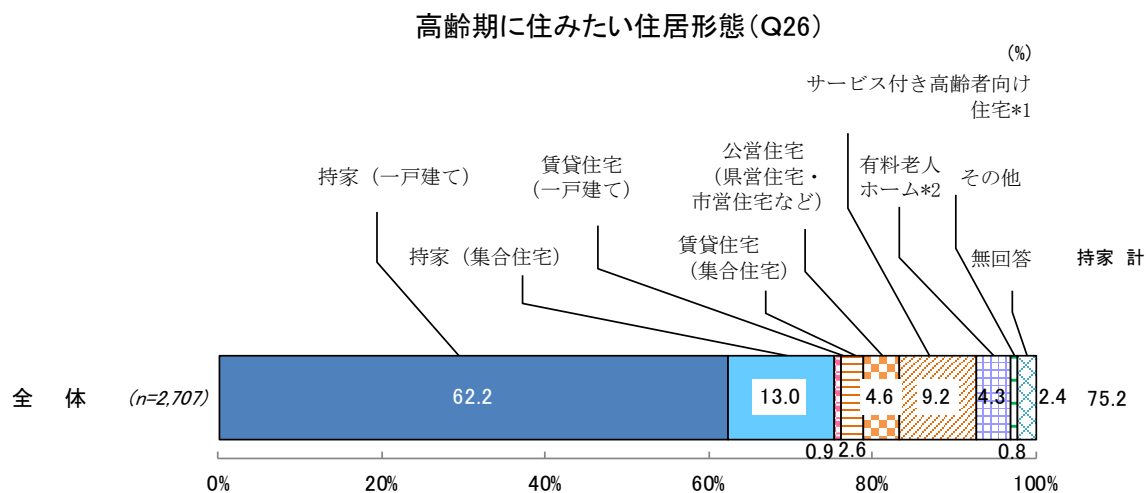
Q26 あなたは、高齢期にどのような形態の住居に住みたいと考えていますか。(○は1つ)

1 持家（一戸建て）	5 公営住宅（県営住宅・市営住宅など）
2 持家（集合住宅）	6 サービス付き高齢者向け住宅*1
3 賃貸住宅（一戸建て）	7 有料老人ホーム*2
4 賃貸住宅（集合住宅）	8 その他（ ）

*1 「サービス付高齢者向け住宅」とは、バリアフリー構造などを有し、安全確認サービス、生活相談サービスなどを提供する賃貸住宅。

*2 「有料老人ホーム」とは、食事などに日常生活に必要なサービスを提供する高齢者向けの居住施設で、介護付、住宅型、健康型のタイプがある。

高齢期に住みたい住居形態について聞いたところ、「持家（一戸建て）」が62.2%で最も高く、次いで「持家（集合住宅）」（13.0%）、「サービス付き高齢者向け住宅」（9.2%）などの順となっている。



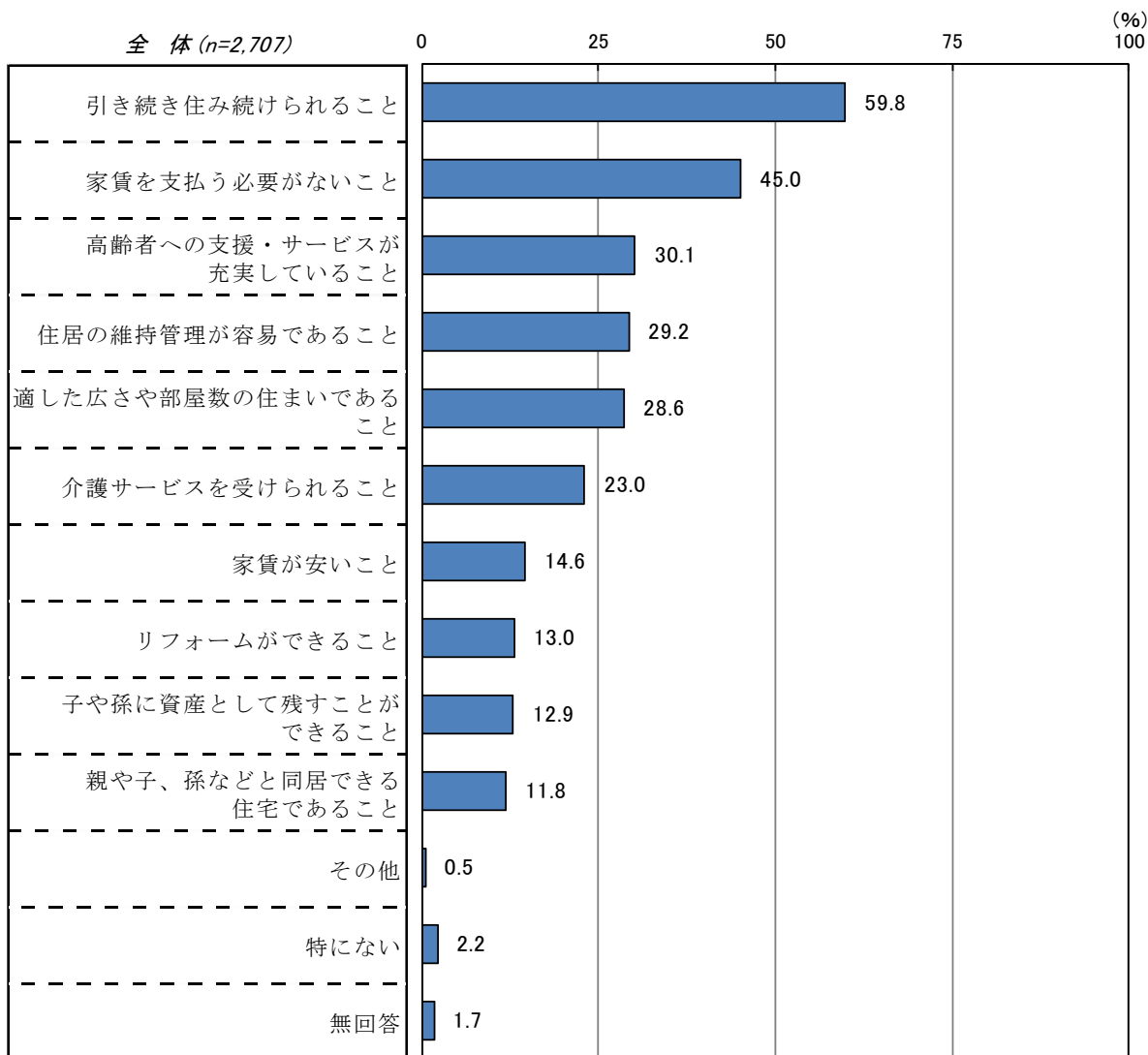
(24) 高齢期に住みたい住居を選ぶ条件(Q27)

Q27 あなたは、高齢期に住みたい住居を選ぶ条件として、重視することはどのようなことですか。
 あてはまるものをいくつでもあげてください。(〇はいくつでも)

1 引き続き住み続けられること	7 高齢者への支援・サービスが充実していること
2 リフォームができること	8 介護サービスを受けられること
3 家賃を支払う必要がないこと	9 親や子、孫など同居できる住宅であること
4 家賃が安いこと	10 子や孫に資産として残すことができること
5 住居の維持管理が容易であること	11 その他 ()
6 適した広さや部屋数の住まいであること	12 特にな

高齢期に住みたい住居を選ぶ条件について聞いたところ、「引き続き住み続けられること」が 59.8%で最も高く、次いで「家賃を支払う必要がないこと」(45.0%)、「高齢者への支援・サービスが充実していること」(30.1%)、「住居の維持管理が容易であること」(29.2%)、「適した広さや部屋数の住まいであること」(28.6%)、「介護サービスを受けられること」(23.0%)などの順となっている。

高齢期に住みたい住居を選ぶ条件(Q27)(複数回答)



(25) 高齢期に備えた建替え・リフォーム・転居の時期(Q29)

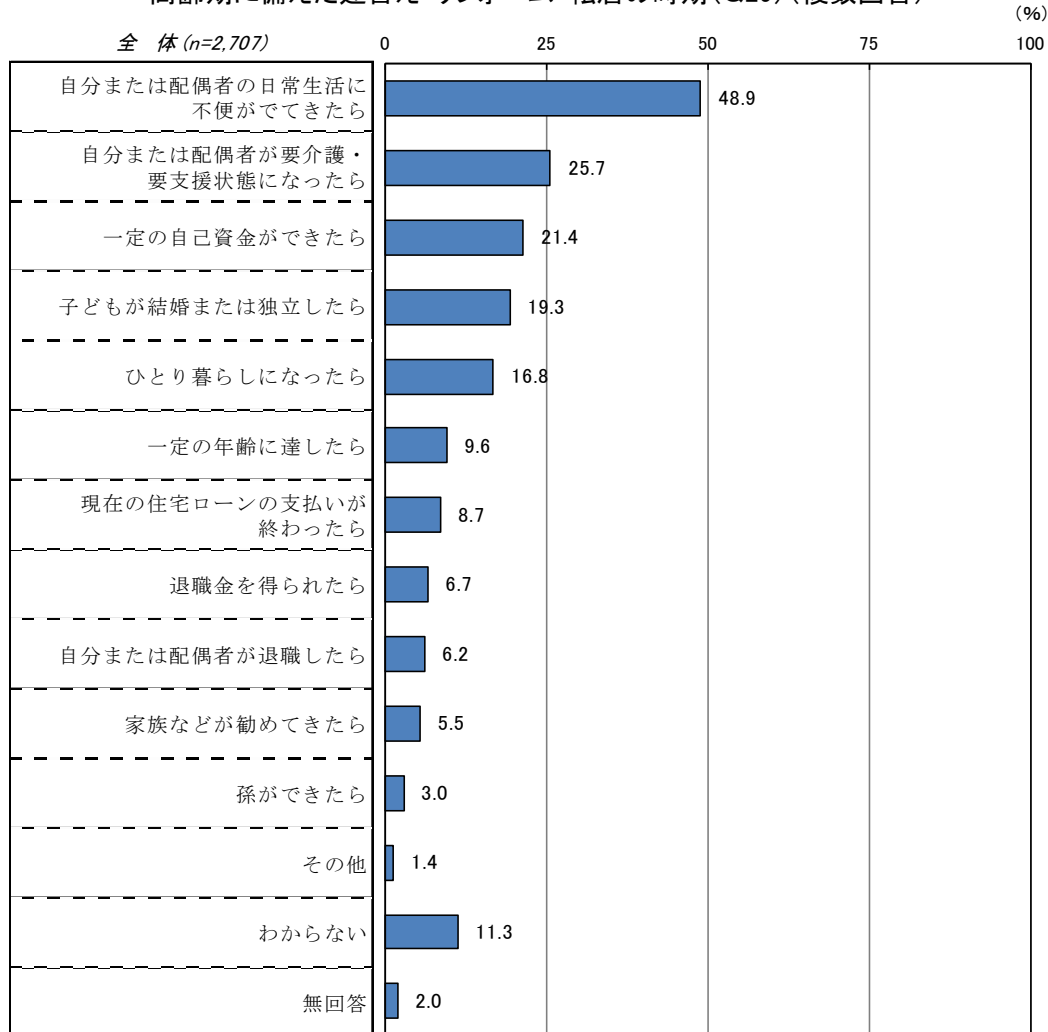
Q29 あなたは、高齢期に備えて、住宅の建て替えや、リフォーム、転居をするとしたら、どのタイミングが適しているとお考えですか。あてはまるものをいくつでもあげてください。

(○はいくつでも)

- 1 子どもが結婚または独立したら
- 2 孫ができたら
- 3 自分または配偶者の日常生活に不便がでてきたら
- 4 自分または配偶者が要介護・要支援状態になったら
- 5 ひとり暮らしになったら
- 6 家族などが勧めてきたら
- 7 自分または配偶者が退職したら
- 8 退職金を得られたら
- 9 現在の住宅ローンの支払いが終わったら
- 10 一定の自己資金ができたら
- 11 一定の年齢に達したら
- 12 その他 ()
- 13 わからない

高齢期に備えた建替え・リフォーム・転居の時期について聞いたところ、「自分または配偶者の日常生活に不便がでてきたら」が48.9%で最も高く、次いで「自分または配偶者が要介護・要支援状態になったら」(25.7%)、「一定の自己資金ができたら」(21.4%)、「子どもが結婚または独立したら」(19.3%)、「ひとり暮らしになったら」(16.8%)などの順となっている。

高齢期に備えた建替え・リフォーム・転居の時期(Q29) (複数回答)



(26)高齢期における子どもとの住まい方(Q30)

Q30 あなたの高齢期における子どもとの住まい方について、子どもとの同居または別居についてどうお考えですか。最もあてはまるものを1つだけあげてください。(○は1つ)

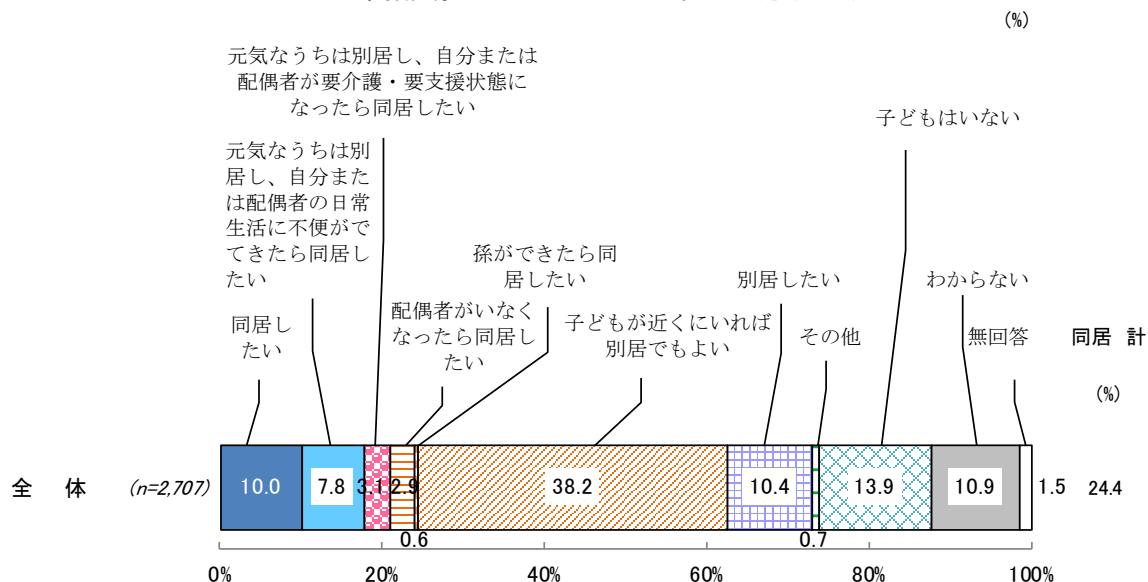
1 同居したい
 2 元気なうちは別居し、自分または配偶者の日常生活に不便がでてきたら同居したい
 3 元気なうちは別居し、自分または配偶者が要介護・要支援状態になったら同居したい
 4 配偶者がいなくなったら同居したい
 5 孫ができれば同居したい
 6 子どもが近くにいれば別居でもよい
 7 別居したい
 8 その他 ()
 9 子どもはいない
 10 わからない

*現在子どものない層も、今後子どもができる可能性を考慮して本設問は全員を対象としている。

高齢期における子どもとの住まい方について聞いたところ、「子どもが近くにいれば別居でもよい」が38.2%で最も高くなっている。一方、「同居したい」(10.0%)、「元気なうちは別居し、自分または配偶者の日常生活に不便がでてきたら同居したい」(7.8%)、「元気なうちは別居し、自分または配偶者が要介護・要支援状態になったら同居したい」(3.1%)、「配偶者がいなくなったら同居したい」(2.9%)と「孫ができれば同居したい」(0.6%)を合わせた『同居(計)』は24.4%である。これに対して、「別居したい」は10.4%となっている。

なお、「子どもはいない」は13.9%、「わからない」は10.9%となっている。

高齢期における子どもとの住まい方(Q30)



(27) 親(配偶者の親も含む)との住まい方(Q31)

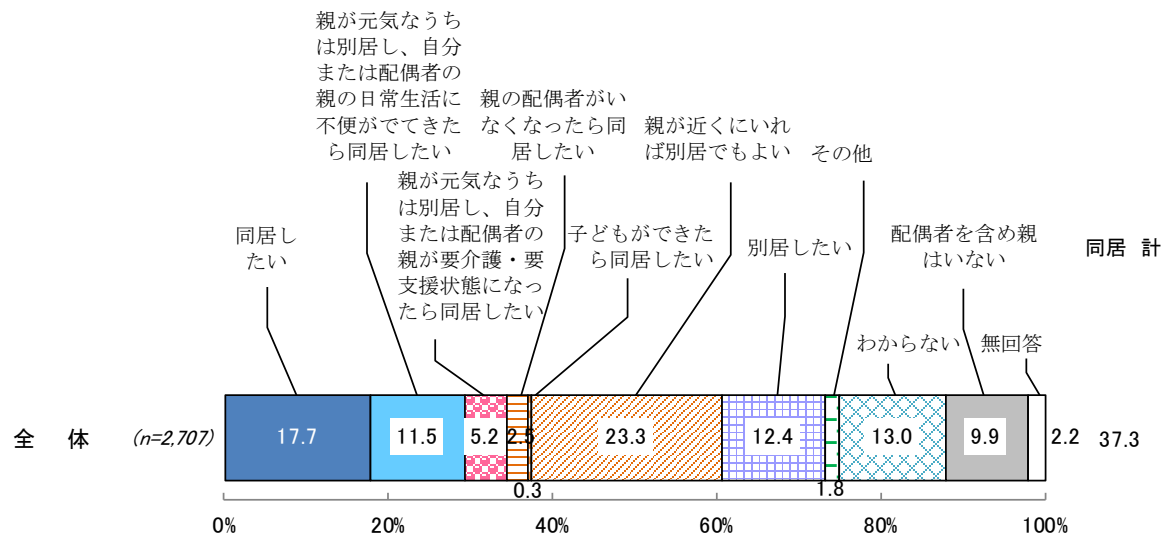
Q31 あなたは、あなたご自身の親(配偶者の親も含む)との同居または別居についてどうお考えですか。最もあてはまるものを1つだけあげてください。(○は1つ)

- 1 同居したい
- 2 親が元気なうちは別居し、自分または配偶者の親の日常生活に不便がでてきたら同居したい
- 3 親が元気なうちは別居し、自分または配偶者の親が要介護・要支援状態になったら同居したい
- 4 親の配偶者がいなくなったら同居したい
- 5 子どもができたら同居したい
- 6 親が近くにいれば別居でもよい
- 7 別居したい
- 8 その他 ()
- 9 わからない
- 10 配偶者を含め親はいない

親(配偶者の親も含む)との住まい方について聞いたところ、「親が近くにいれば別居でもよい」が23.3%で、最も高い。また、「同居したい」は17.7%で、「親が元気なうちは別居し、自分または配偶者の親の日常生活に不便がでてきたら同居したい」(11.5%)、「親が元気なうちは別居し、自分または配偶者が要介護・要支援状態になったら同居したい」(5.2%)、「親の配偶者がいなくなったら同居したい」(2.5%)及び「子どもができたら同居したい」(0.3%)を合わせた『同居(計)』(37.3%)は4割近い。一方、「別居したい」は12.4%となっている。

親(配偶者の親も含む)との住まい方(Q31)

(%)



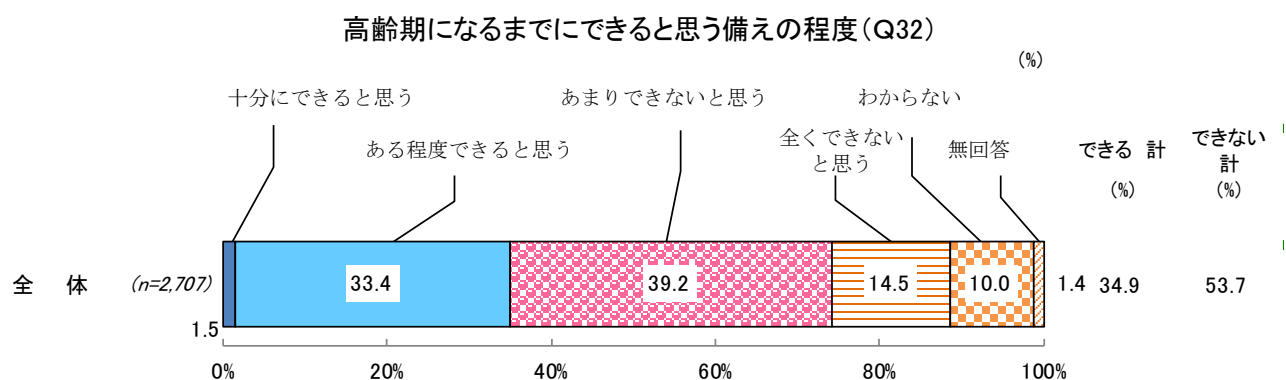
(高齢期の生活全般に関する意識)

(28) 高齢期になるまでにできると思う備えの程度(Q32)

Q32 改めてお伺いいたします。あなたの世帯では、高齢期になるまでに、高齢期に必要な備えができると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 十分にできると思う | 3 あまりできないと思う |
| 2 ある程度できると思う | 4 全くできないと思う |
| | 5 わからない |

高齢期になるまでにできると思う備えの程度について聞いたところ、「十分にできると思う」(1.5%)と「ある程度できると思う」(33.4%)を合わせた『できる(計)』が34.9%、「あまりできないと思う」(39.2%)と「全くできないと思う」(14.5%)を合わせた『できない(計)』が53.7%となっている。



(29)高年齢期になるまでに備えができない理由(Q32SQ)

<Q32で「3 あまりできないと思う」または「4 全くできないと思う」とお答えの方に>

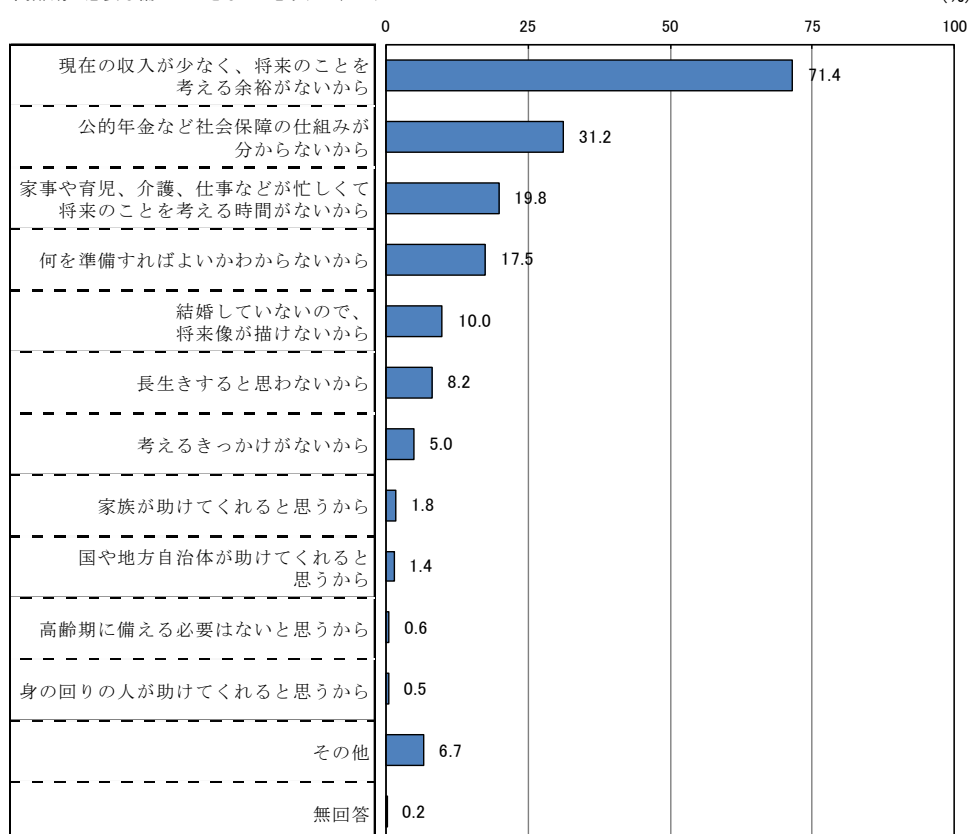
SQ 備えができないと思う理由をいくつかあげてください。(〇はいくつでも)

- 1 公的年金など社会保障の仕組みが分からないから
- 2 現在の収入が少なく、将来のことを考える余裕がないから
- 3 家事や育児、介護、仕事などが忙しくて将来のことを考える時間がないから
- 4 結婚していないので、将来像が描けないから
- 5 考えるきっかけがないから
- 6 長生きすると思わないから
- 7 家族が助けしてくれると思うから
- 8 身の回りの人が助けしてくれると思うから
- 9 国や地方自治体が助けしてくれると思うから
- 10 高年齢期に備える必要はないと思うから
- 11 何を準備すればよいかわからないから
- 12 その他 ()

高年齢期になるまでにできると思う備えの程度について「あまりできない」「全くできない」と答えた者(1,453人)に対し、高年齢期になるまでに備えができない理由を聞いたところ、「現在の収入が少なく、将来のことを考える余裕がないから」(71.4%)が7割を上回って最も高く、次いで「公的年金など社会保障の仕組みが分からないから」(31.2%)、「家事や育児、介護、仕事などが忙しくて将来のことを考える時間がないから」(19.8%)、「何を準備すればよいかわからないから」(17.5%)、「結婚していないので、将来像が描けないから」(10.0%)、「長生きすると思わないから」(8.2%)などの順となっている。

高年齢期になるまでに備えができない理由(Q32SQ)(複数回答)

高年齢に必要な備えができないと思う(n=1,453)



(高齢期の生活全般に関する意識)

(30)国や地方自治体に対する要望(Q34)

Q34 あなたは、国や地方自治体にどのようなことに力をいれてほしいと思いますか。この中からあてはまるものがあれば、3つまであげてください。(○は3つまで)

1 介護や福祉サービス	10 防災対策
2 医療サービス	11 事故や犯罪防止 (財産目当ての犯罪など)
3 公的な年金制度	12 結婚に関する支援
4 老後のための個人的な財産形成の支援	13 妊娠・出産に関する支援
5 働く場の確保	14 育児・子育て支援
6 能力開発	15 教育
7 ワーク・ライフ・バランス	16 ボランティア活動や学習のための場の確保
8 高齢者向けの住宅の整備	17 高齢期に向けた備えに関する各種情報の提供
9 高齢者に配慮したまちづくり	18 その他 ()
	19 特にない

国や地方自治体に対する要望について聞いたところ、「介護や福祉サービス」(58.6%)と「公的な年金制度」(56.9%)がともに6割近くになっており、次いで「医療サービス」(48.3%)、「働く場の確保」(23.4%)、「育児・子育て支援」(11.8%)、「高齢者に配慮したまちづくり」(11.3%)、「老後のための個人的な財産形成の支援」(10.9%)、「高齢者向けの住宅の整備」(10.5%)、「防災対策」(10.5%)、「高齢期に向けた備えに関する各種情報の提供」(8.9%)などの順となっている。

国や地方自治体に対する要望(Q34)(3つまでの複数回答)

